

令和4年度 日本水産学会春季大会 報告

◇期日:令和4年3月28日(月)

◇場所:日本大学(大会本部)、本校探究ゼミ室(オンライン参加)

◇参加者:SS生物部員12名

◇指導者:SS生物部顧問 真野佳余先生

日本水産学会春季大会は、全国の高校や大学、研究機関を対象とした、水産学や水圏の生物学、環境学などに関する研究発表を行う大会である。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響でZoomを用いたオンラインでの開催であった。

本校からは、「共生ハゼとテッポウエビ類の共生関係について part2」、「いたち川における環境DNAを用いたトミヨの生息調査」、「ドクターフィッシュの食について」、「カメの学習能力について」という題で4つの班がそれぞれ発表した。研究発表は、主にポスターを見せながらの発表だったが、聞き手の反応がわからず、理解しやすい発表をするのに苦労した。質疑



応答では、他校の生徒や大学の教授からの予期していなかった質問に戸惑い、的確に返答するのが非常に難しかったが、新たな視点からの質問や意見は、今後の研究や発表の参考になった。

他の学校の発表やポスターを、一部ではあったが見聞きすることができた。聞き手として、関心を持ったところ

ろや気になったところを積極的に質問した。他校の研究の中にはとてもレベルの高いものもあり、大きな刺激を受けた。

高校生ポスター発表の表彰では、ハゼの研究が最優秀賞を受賞した。残りの3班も受賞こそできなかったものの、全国の生徒と交流する貴重な機会で、得られたものが多くあったと思う。今回の大会で学んだことを今後の研究や発表に生かし、より科学的な研究や分かりやすい発表を作り上げられるよう心がけていきたい。

(SS生物部 27H 平野 記)

